

本資料のうち、枠囲みの内容は、機密事項に属しますので公開できません。

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 工事計画審査資料	
資料番号	KK7添-2-036-1-3 改1
提出年月日	2020年7月2日

V-2-5-1(3) 管の耐震性についての計算書
(原子炉冷却材浄化設備 原子炉冷却材浄化系)

K7 ① V-2-5-1(3) R0

2020年7月

東京電力ホールディングス株式会社

- (3) 管の耐震性についての計算書（原子炉冷却材
浄化設備 原子炉冷却材浄化系）

設計基準対象施設

目 次

1.	概要	1
2.	概略系統図及び鳥瞰図	2
2.1	概略系統図	2
2.2	鳥瞰図	4
3.	計算条件	6
3.1	計算方法	6
3.2	荷重の組合せ及び許容応力状態	7
3.3	設計条件	8
3.4	材料及び許容応力	11
3.5	設計用地震力	12
4.	解析結果及び評価	13
4.1	固有周期及び設計震度	13
4.2	評価結果	19
4.2.1	管の応力評価結果	19
4.2.2	支持構造物評価結果	21
4.2.3	弁の動的機能維持評価結果	22
4.2.4	代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果	23

1. 概要

本計算書は、V-2-1-14 「計算書作成の方法 添付資料-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」（以下「基本方針」という。）に基づき、管、支持構造物及び弁が設計用地震力に対して十分な構造強度及び動的機能を有していることを説明するものである。

評価結果記載方法は、以下に示すとおりである。

(1) 管

工事計画記載範囲の管のうち、各応力区分における最大応力評価点評価結果を解析モデル単位に記載する。また、全2モデルのうち、各応力区分における最大応力評価点の許容値／発生値（以下「裕度」という。）が最小となる解析モデルを代表として鳥瞰図、計算条件及び評価結果を記載する。各応力区分における代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果を4.2.4に記載する。

(2) 支持構造物

工事計画記載範囲の支持点のうち、種類及び型式単位に反力が最大となる支持点の評価結果を代表として記載する。




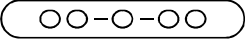

(3) 弁

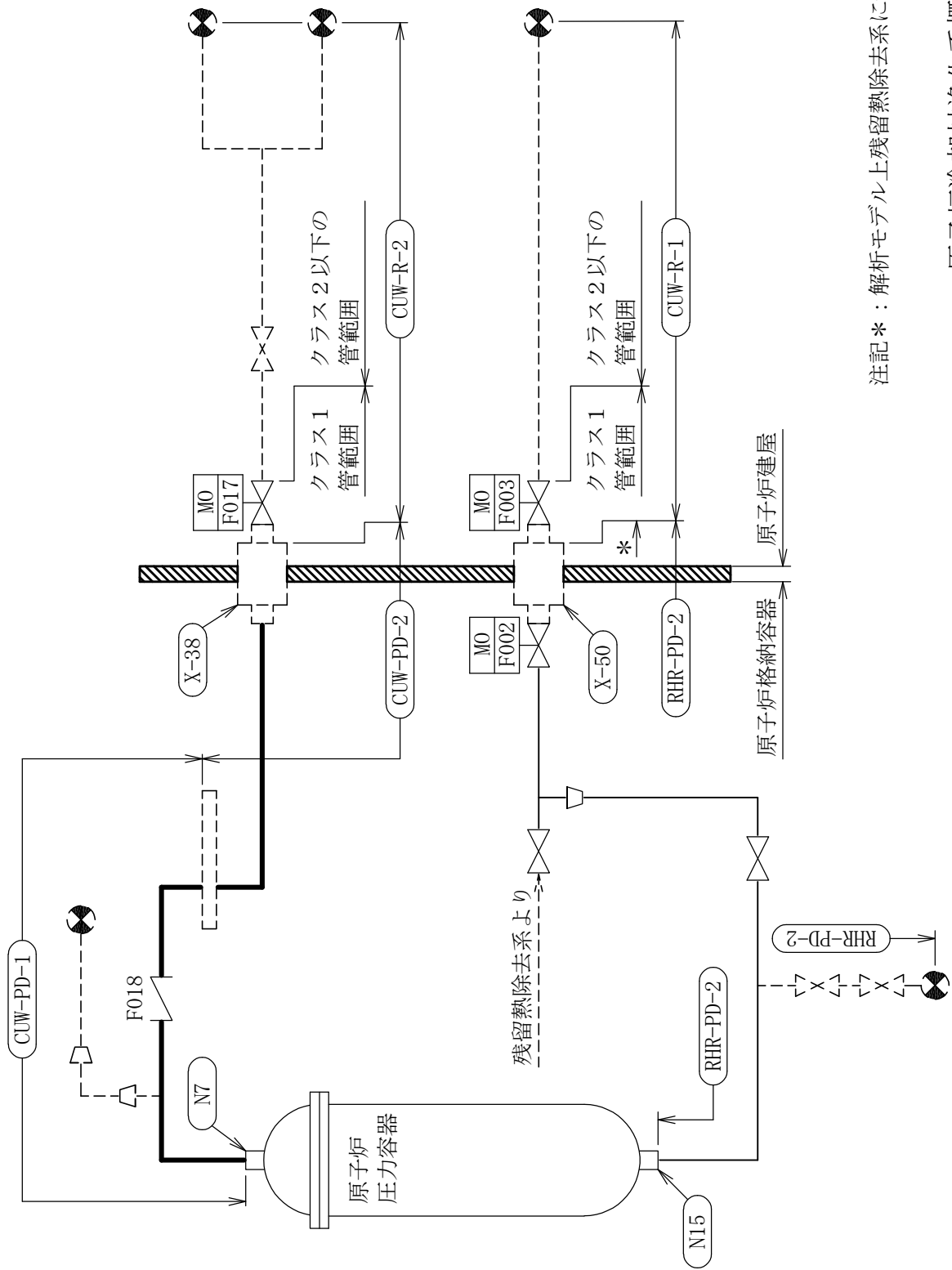
機能確認済加速度の機能維持評価用加速度に対する裕度が最小となる動的機能維持要求弁を代表として評価結果を記載する。

2. 概略系統図及び鳥瞰図

2.1 概略系統図

概略系統図記号凡例

記号	内容
 (太線)	工事計画記載範囲の管のうち、本計算書記載範囲の管
 (細線)	工事計画記載範囲の管のうち、本系統の管であって他計算書記載範囲の管
 (破線)	工事計画記載範囲外の管又は工事計画記載範囲の管のうち、他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管
	鳥瞰図番号
	アンカ






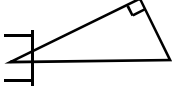
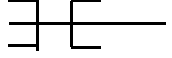

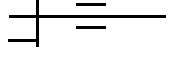
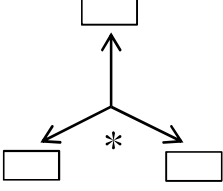


注記*: 解析モデル上残留熱除去系に含める。

2.2 鳥瞰図

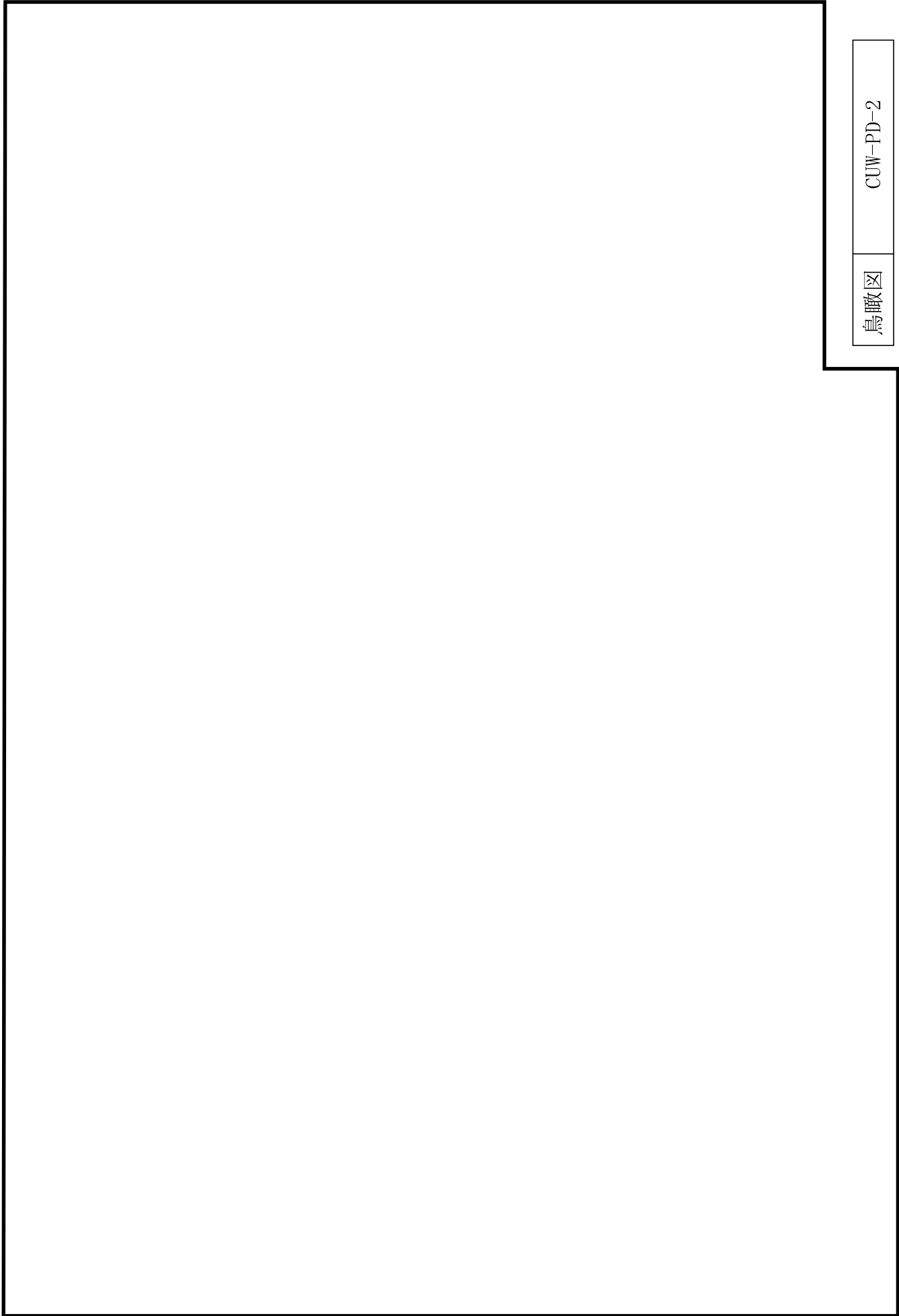
鳥瞰図記号凡例

K7 ① V-2-5-1 (3) (設) R0

記号	内容
 (太線)	工事計画記載範囲の管のうち、本計算書記載範囲の管
 (細線)	工事計画記載範囲の管のうち、本系統の管であって他計算書記載範囲の管
 (破線)	工事計画記載範囲外の管又は工事計画記載範囲の管のうち、他系統の管であって解析モデルの概略を示すために表記する管
	質点
	アンカ
	レストレイント (本図は斜め拘束の場合の全体座標系における拘束方向成分を示す。スナップについても同様とする。)
	スナップ
	ハンガ
	リジットハンガ
	拘束点の地震による相対変位量(mm) (*は評価点番号, 矢印は拘束方向を示す。また, 内に 変位量を記載する。)

注1：鳥瞰図中の寸法の単位はmmである。

K7 ① V-2-5-1 (3) (設) R0



鳥瞰図

CUW-PD-2

3. 計算条件

3.1 計算方法

管の構造強度評価は、「基本方針」に記載の評価方法に基づき行う。解析コードは、「H I S A P」を使用し、解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、別紙「計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。

3.2 荷重の組合せ及び許容応力状態

本計算書において考慮する荷重の組合せ及び許容応力状態を下表に示す。

施設名称	設備名称	系統名称	施設分類 ^{*1}	設備分類	機器等の区分	耐震重要度分類	荷重の組合せ ^{*2,3}	許容応力状態
原子炉冷却系統施設	原子炉冷却材浄化設備	原子炉冷却材浄化系	D B	—	クラス1管	S	I _L + S _d	III _A S
							II _L + S _d	
							I _L + S _s	IV _A S
							II _L + S _s	
IV _L (L) + S _d								

注記*1：D Bは設計基準対象施設，S Aは重大事故等対処設備を示す。

*2：運転状態の添字Lは荷重，（L）は荷重が長期間作用している状態を示す。

*3：許容応力状態ごとに最も厳しい条件又は包絡条件を用いて評価を実施する。

3.3 設計条件

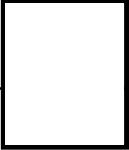
鳥瞰図番号ごとに設計条件に対応した管番号で区分し、管番号と対応する評価点番号を示す。

鳥瞰図 CUW-PD-2

管番号	対応する評価点	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	耐震 重要度分類	縦弾性係数 (MPa)
1	4~34A	8.62	302	165.2	14.3	STS410	S	200400

配管の付加質量

鳥瞰図 CUW-PD-2

質量	対応する評価点
	4~5, 8001~9001, 1301~15, 1701~1801, 2101~2201 27~31
	5~8001, 9001~1301, 15~1701, 1801~2101, 2201~27 31~34A

支持点及び貫通部ばね定数

鳥瞰図 CUW-PD-2

支持点番号	各軸方向ばね定数(N/mm)			各軸回り回転ばね定数(N・mm/rad)		
	X	Y	Z	X	Y	Z
6						
** 6 **						
18						
25						
34A						



3.4 材料及び許容応力

使用する材料の最高使用温度での許容応力を下表に示す。

材料	最高使用温度 (°C)	許容応力 (MPa)			
		S _m	S _y	S _u	S _h
STS410	302	122	—	—	—

3.5 設計用地震力

本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答曲線を下表に示す。
なお、設計用床応答曲線はV-2-1-7「設計用床応答曲線の作成方針」に基づき策定したものを
用いる。また、減衰定数はV-2-1-6「地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。

鳥瞰図	建屋・構築物	標高	減衰定数(%)
CUW-PD-2	原子炉遮蔽壁		

4. 解析結果及び評価
 4.1 固有周期及び設計震度

鳥瞰図 CUW-PD-2

適用する地震動等		S d 及び静的震度			S s		
モード	固有周期 (s)	応答水平震度*1		応答鉛直震度*1	応答水平震度*1		応答鉛直震度*1
		X方向	Z方向	Y方向	X方向	Z方向	Y方向
1次	[Blank Box]						
2次							
3次							
4次							
5次							
6次							
7次							
8次							
動的震度*2							
静的震度*3							

注記*1：各モードの固有周期に対し，設計用床応答曲線より得られる震度を示す。
 *2：S d 又はS s 地震動に基づく設計用最大応答加速度より定めた震度を示す。
 *3：3.6C_I及び1.2C_Vより定めた震度を示す。

各モードに対応する刺激係数

鳥瞰図 CUW-PD-2

モード	固有周期 (s)	刺激係数*		
		X方向	Y方向	Z方向
1次				
2次				
3次				
4次				
5次				
6次				
7次				

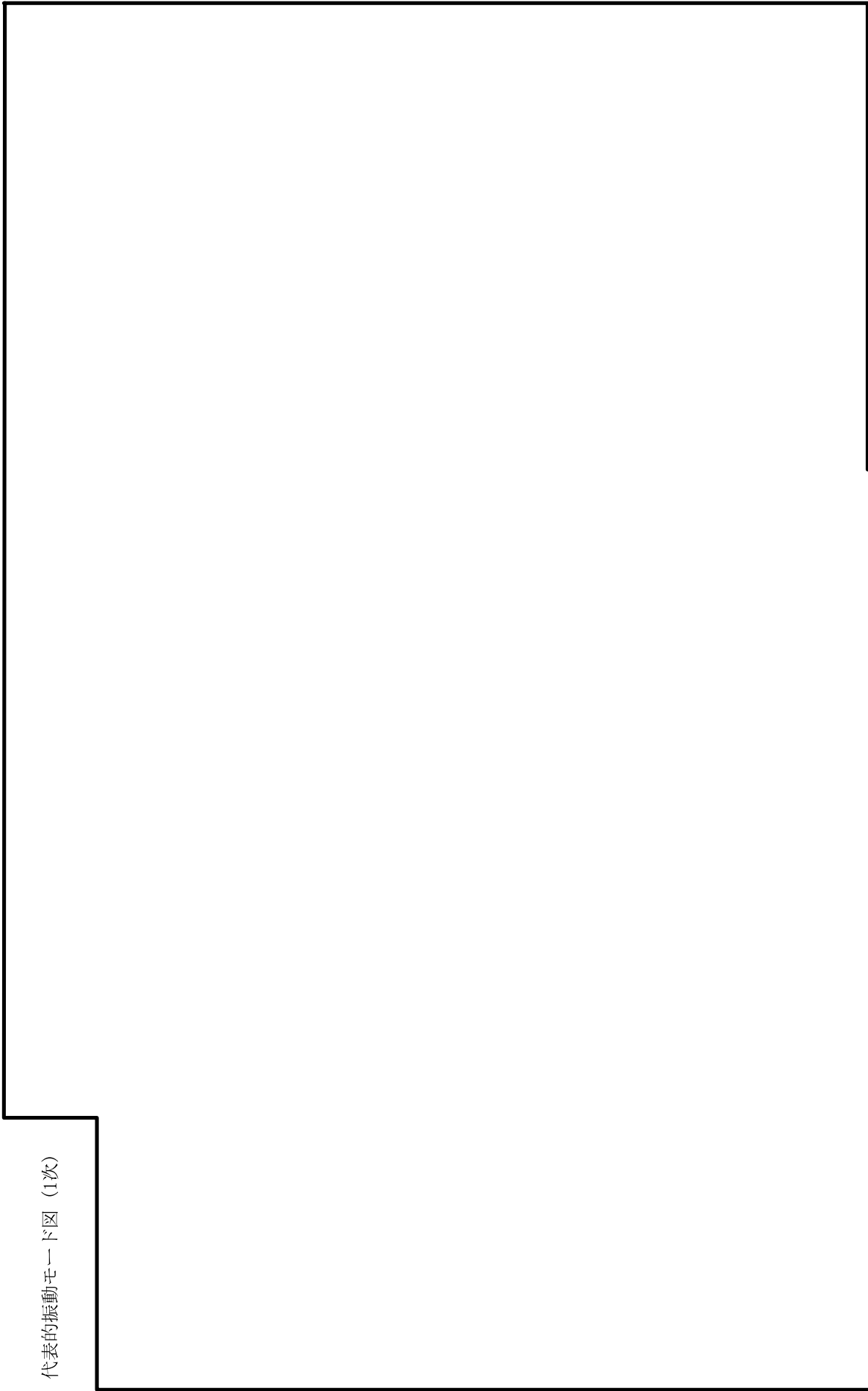
注記*：刺激係数は、モード質量を正規化し、固有ベクトルと質量マトリックスの積から算出した値を示す。

代表的振動モード図

振動モード図は，3次モードまでを代表とし，各質点の変位の相対量・方向を破線で図示し，次ページ以降に示す。

K7 ① V-2-5-1 (3) (設) R0

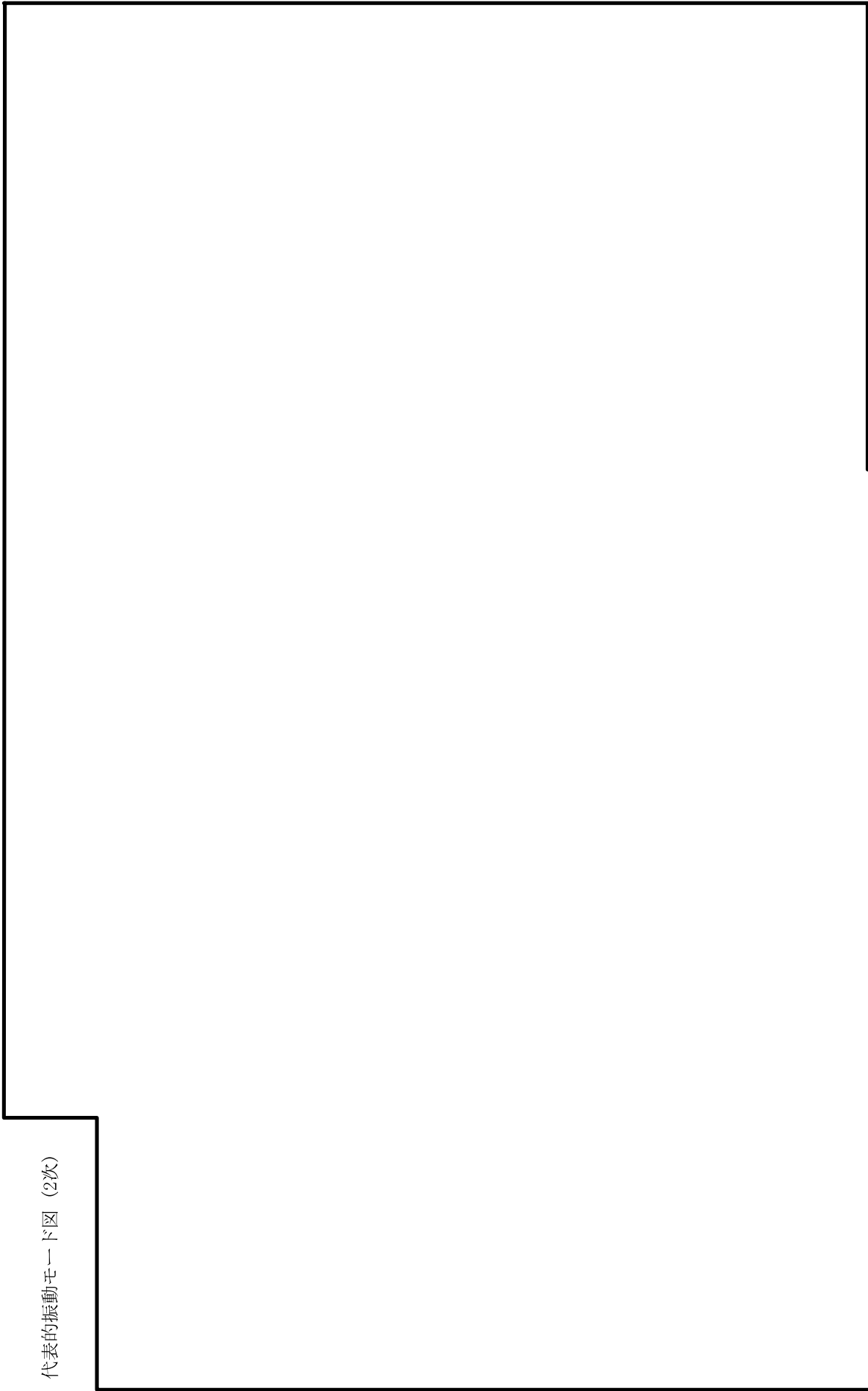
代表的振動モード図 (1次)



鳥瞰図

CUW-PD-2

代表的振動モード図 (2次)

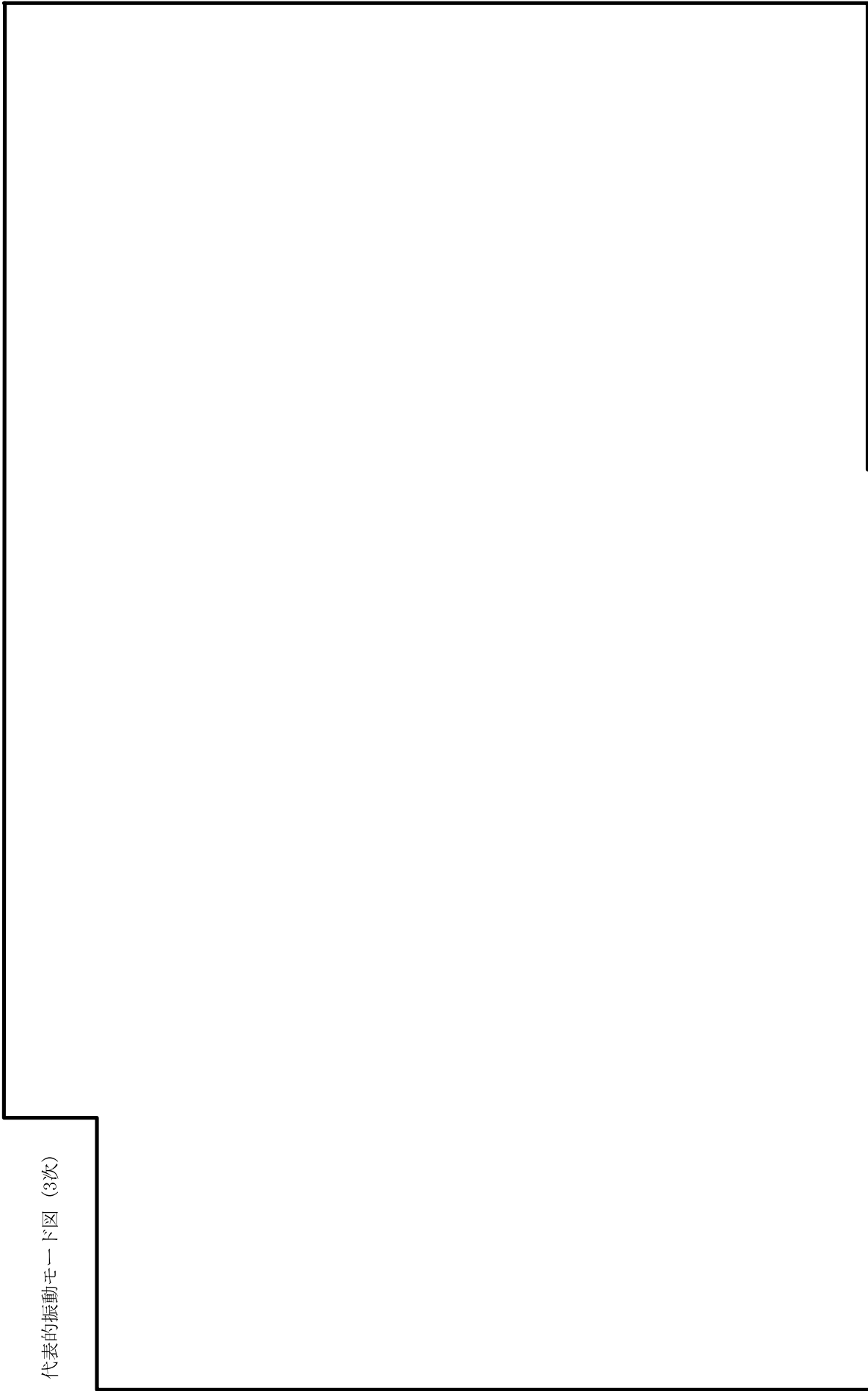


鳥瞰図

CUW-PD-2

K7 ① V-2-5-1 (3) (設) R0

代表的振動モード図 (3次)



鳥瞰図

CUW-PD-2

4.2 評価結果

4.2.1 管の応力評価結果

下表に示すとおり最大応力及び疲労累積係数はそれぞれの許容値以下である。

クラス1管

鳥瞰図	許容応力状態	最大応力評価点	配管要素名称	最大応力区分	一次応力評価 (MPa)				一次+二次応力評価 (MPa)		疲労評価
					一次応力 S _{pr_m} (S _d) S _{pr_m} (S _s)	許容応力 2.25 S _m 3 S _m	ねじり* 応力 S _t (S _d) S _t (S _s)	許容 応力 0.55 S _m 0.73 S _m	一次+二次 応力 S _n (S _s)	許容 応力 3 S _m	
CUW-PD-2	III _A S	20	ELBOW	S _{pr_m} (S _d)	150	274	—	—	—	—	—
CUW-PD-2	III _A S	21	ELBOW	S _t (S _d)	—	—	84	67	—	—	—
CUW-PD-2	IV _A S	20	ELBOW	S _{pr_m} (S _s)	243	366	—	—	—	—	—
CUW-PD-2	IV _A S	21	ELBOW	S _t (S _s)	—	—	146	89	—	—	—
CUW-PD-2	IV _A S	20	ELBOW	S _n (S _s)	—	—	—	—	623	366	0.3097
CUW-PD-2	IV _A S	20	ELBOW	U+U S _s	—	—	—	—	—	—	0.3097

注記*：ねじり応力が許容応力状態III_A Sのとき0.55 S_m、又は許容応力状態IV_A Sのとき0.73 S_mを超える場合は、曲げ+ねじり応力評価を実施する。

下表に示すとおりねじりによる応力が許容応力状態ⅢA S のとき0.55 S_m、又は許容応力状態ⅣA S のとき0.73 S_mを超える評価点のうち曲げとねじりによる応力は許容値を満足している。

鳥瞰図	評価点	一次応力評価 (MPa)			
		ねじり応力 S _t (S _d) S _t (S _s)	許容応力 0.55 S _m 0.73 S _m	曲げとねじり応力 S _t +S _b (S _d) S _t +S _b (S _s)	許容応力 1.8 S _m 2.4 S _m
CUW-PD-2	21	84	67	108	219
CUW-PD-2	21	146	89	191	292

4.2.2 支持構造物評価結果

下表に示すとおり計算応力及び計算荷重はそれぞれの許容値以下である。

支持構造物評価結果 (荷重評価)

支持構造物 番号	種類	型式	材質	温度 (°C)	評価結果	
					計算 荷重 (kN)	許容 荷重 (kN)
SNM-CUW-P002	メカニカルスナツバ	SMS-3A-I00	V-2-1-12「配管及び支 持構造物の耐震計算に ついて」参照	45	12	45
CH-CUW-P003	コンスタントハンガ	CSH7-B1A(A)(B)			3.3	2×1.7

支持構造物評価結果 (応力評価)

支持構造物 番号	種類	型式	材質	温度 (°C)	支持点荷重						評価結果			
					反力 (kN)			モーメント (kN・m)			応力 分類	計算 応力 (MPa)	許容 応力 (MPa)	
					F _x	F _y	F _z	M _x	M _y	M _z				
RE-CUW-P004	レストレイント	パイプバンド	STK400 SM400B	302	0	19	21	—	—	—	—	引張圧縮	38	79

4.2.3 弁の動的機能維持評価結果

下表に示すとおり機能維持評価用加速度が機能確認済加速度以下又は計算応力が許容応力以下である。

弁番号	形式	要求機能	機能維持評価用加速度* ($\times 9.8\text{m/s}^2$)		機能確認済加速度 ($\times 9.8\text{m/s}^2$)		構造強度評価結果 (MPa)	
			水平	鉛直	水平	鉛直	計算応力	許容応力
G31-F003	止め弁	α (Ss)	2.0	1.1	6.0	6.0	—	—

注記*：機能維持評価用加速度は、打ち切り振動数を30Hzとして計算した結果を示す。

4.2.4 代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果

代表モデルは各モデルの最大応力点の応力と裕度を算出し、応力分類毎に裕度最小のモデルを選定して鳥瞰図、設計条件及び評価結果を記載している。下表に、代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果を示す。

代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果 (クラス1管)

No.	配管モデル	許容応力状態 IIIAS						許容応力状態 IVAS						疲労評価				
		一次応力			一次応力			一次+二次応力*			一次+二次応力*			評価点	代表			
		評価点	計算 応力 (MPa)	許容 応力 (MPa)	裕度	代表	評価点	計算 応力 (MPa)	許容 応力 (MPa)	裕度	代表	評価点	計算 応力 (MPa)			許容 応力 (MPa)	裕度	代表
1	CUW-PD-1	53	86	274	3.18	—	53	112	366	3.26	—	53	417	366	0.87	—	48	0.0359
2	CUW-PD-2	20	150	274	1.82	○	20	243	366	1.50	○	20	623	366	0.58	○	20	0.3097

注記* : IIIASの一次+二次応力の許容値はIVASと同様であることから、地震荷重が大きいIVASの一次+二次応力裕度最小を代表とする。

代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果（クラス2以下の管）

No.	配管モデル	許容応力状態 IIIAS						許容応力状態 IVAS						疲労評価				
		一次応力			一次応力			一次+二次応力*			一次+二次応力*			評価点	疲労累積係数	代表		
		評価点	計算応力 (MPa)	許容応力 (MPa)	裕度	代表	評価点	計算応力 (MPa)	許容応力 (MPa)	裕度	代表	評価点	計算応力 (MPa)				許容応力 (MPa)	裕度
1	CUW-R-1	16	89	182	2.04	—	16	121	363	3.00	—	16	135	364	2.69	—	—	—
2	CUW-R-2	22	71	182	2.56	—	22	91	363	3.98	—	34	103	364	3.53	—	—	—

注記*：IIIASの一次+二次応力の許容値はIVASと同様であることから、地震荷重が大きいIVASの一次+二次応力裕度最小を代表とする。